

2026年 2月期・Q3

決算補足資料 2026年 2月期

January 13<sup>th</sup>, 2026

東証プライム 7599

IDOM Inc.



株式会社 IDOM CFOの西端です。

## おことわり

IDOMの開示資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績などが変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、IDOMの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、相場の影響などがあります。また、この資料に含まれている情報は、広告宣伝、アドバイスを目的としているものではありません。

1. 2026年 2月期 第3四半期の実績	4
2. 2026年 2月期 第3四半期の取り組み	15
3. APPENDIX	19
4. APPENDIX（業績・財務の補足情報）	41

私からは、2026年 2月期第3四半期の決算について説明  
します。

1. 2026年 2月期 第3四半期の実績



IDOM Inc.

<p>連結</p> <p>連結営業利益</p> <p>営業利益</p> <p><b>145億円</b> 前年同期比 <math>\Delta 4\%</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上期から前年同期比のマイナス幅減少と改善。</li> <li>• 第3四半期のみでは過去最高の営業利益60億円。</li> </ul>
<p>小売</p> <p>小売台粗利</p> <p>小売台粗利</p> <p><b>108<sup>※</sup></b> 前年同期比 <math>\Delta 2\%</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 台粗利の改善は継続しておりマイナス幅が減少。</li> <li>• 第3四半期のみでは117と大幅に改善。</li> </ul>
<p>小売</p> <p>小売台数</p> <p>小売台数</p> <p><b>125,177台</b> 前年同期比 <math>+10\%</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前年同期比<math>+10\%</math>と過去最高小売台数を維持。</li> <li>• 第3四半期のみでは過去最高の40,987台。</li> </ul>

IDOM Inc. ※ 2023年2月期 通期の小売台粗利を100とした時の指数

5

スライド5をご覧ください。今第3四半期のハイライトです。

はじめのポイントは、連結の営業利益についてです。連結営業利益は145億円となりました。

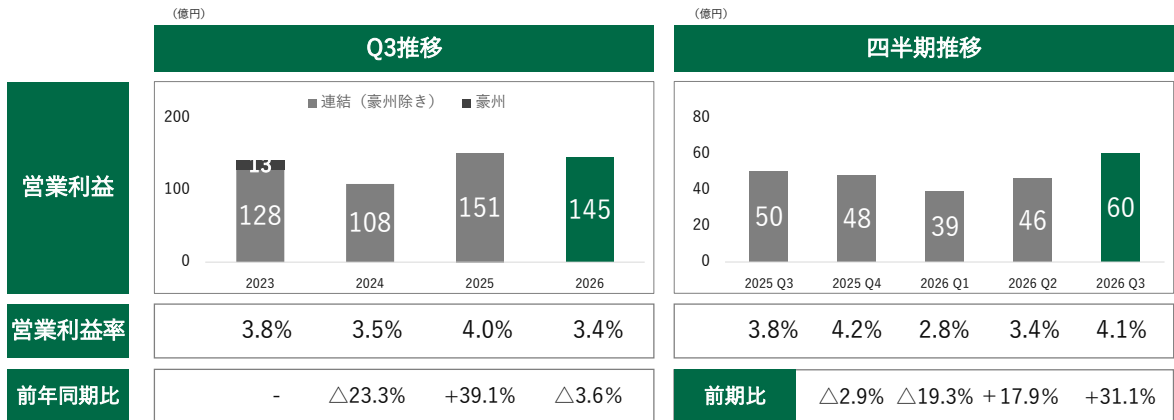
第3四半期3カ月間では60億円と過去最高の営業利益となっています。

次のポイントは小売台粗利です。

今上期に高値で仕入れた在庫の処分に時間を要しましたが、第2四半期の8月からは回復、第3四半期単独で117(約47万円)まで回復。9カ月の累計では108まで回復しました。年間の目標値である111に向けて順調に推移しています。

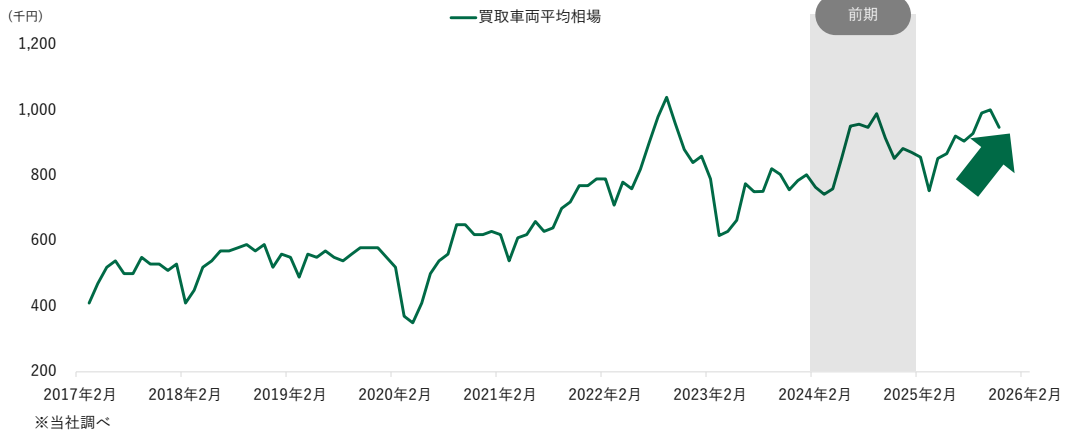
3番目のポイントは、小売台数です。

当期の小売台数は125,177台。前年同期から10%伸び、過去最高の水準となりました。大型店が小売台数の伸びに貢献しています。



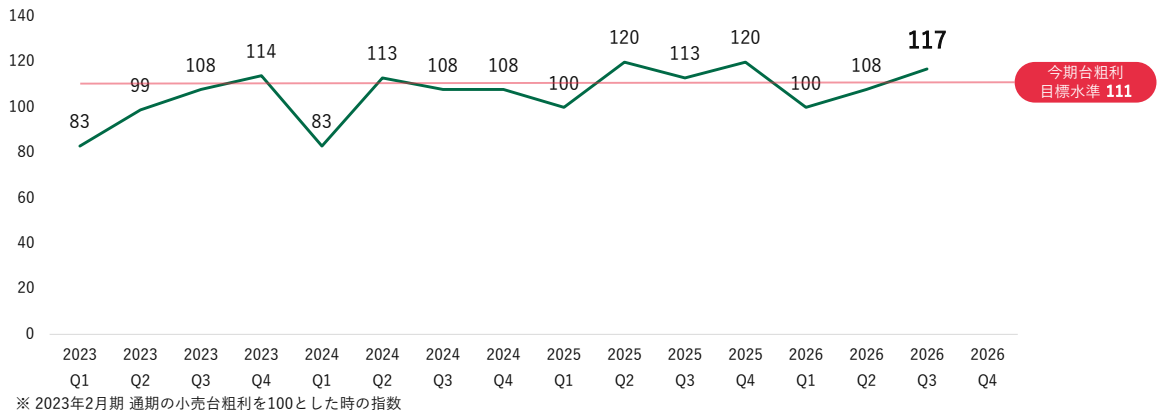
IDOM Inc. ※ 「2026」表記は、2026年2月期を示す。

スライドの左側で第3四半期累計の営業利益の4年間の推移を示しています。  
 スライドの右側では、最近5四半期の営業利益の推移を示しています。第1四半期を底として回復傾向となり、第3四半期の3カ月では前期に対して+31%伸長しています。同じく当四半期の営業利益率は4.1%になっています。



中古車相場に関して、相場の上昇傾向は維持。  
12月にむけて季節性により若干の低下はあるものの影響は軽微。

当社の買取単価から中古車相場の推移を示しています。店舗の出店にあわせて第1四半期の前に多くの在庫を保有した後で、相場が急落しました。その後、相場は上昇トレンドとなっています。



上期に行ってきた在庫の改善が功を奏し大幅に台粗利は改善。  
足元でもこの傾向を維持。

IDOM Inc. ※ 「2026」表記は、2026年2月期を示す。

小売台粗利の2023年2月期からの推移を四半期毎に示しています。

オレンジ色の線は、通期の業績予想の前提である111の水準を示しています。

前のスライドのところでお話したように、年初の相場下落に対して、在庫の処理を進めましたが、その影響が残り、第2四半期までは年間の業績予想の前提より低い水準にとどまりました。

ただ第1四半期以降、回復トレンドは続いており、第3四半期3か月の小売台粗利は117と年間の目標水準を越えました。

今後も、小売台粗利は堅調に推移して、累計ベースで通期の計画前提に向けて改善していくとみています。

		2024 Q3	2025 Q3	2026 Q3	増減差
店舗数	大型店出店数(店舗)	4	9	11	+2
小売	小売台数(千台)	106.5	113.5	125.2	+11.7
	小売台粗利 (2023を100とした時の指数)	100	110	108	-
卸売	卸売台数(千台)	95.5	113.9	114.8	+0.9
	卸売台粗利 (2023を100とした時の指数)	100	120	106	-

出店は計画通り順調に進捗。小売台数は過去最高を記録。

IDOM Inc. ※「2026」表記は、2026年2月期を示す。

9

ここでは第3四半期累計の主要KPIについてお話しします。

第3四半期までにオープンした大型店舗は11店舗、この四半期に3店舗増加しました。

小売については、台数を約12千台伸ばす事が出来ました。台粗利は回復しているものの、前期の水準には未だ届いていません。

卸売について、台数は前年同期で900台増加、上期までの前年比マイナスからプラスに転換しました。粗利については、106まで上昇しました。

(億円)	2025	2026	売上高構成比	増減差	増減率
売上高	3,805	4,215	100.0%	410	10.8%
売上総利益	666	702	16.7%	36	5.5%
販管費	515	557	13.2%	42	8.2%
営業利益	151	145	3.4%	△6	△3.6%
経常利益	145	134	3.2%	△11	△7.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	91	2.2%	△7	△7.3%
EBITDA※1	175	175	4.2%	△0	△0.1%

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

IDOM Inc. ※ 「2026」表記は、2026年2月期を示す。

10

連結の損益計算書です。

売上高は4215億円、前年同期を11%上回りました。

売上総利益(粗利益)は前年同期比で6%増、販管費は8%増となりました。

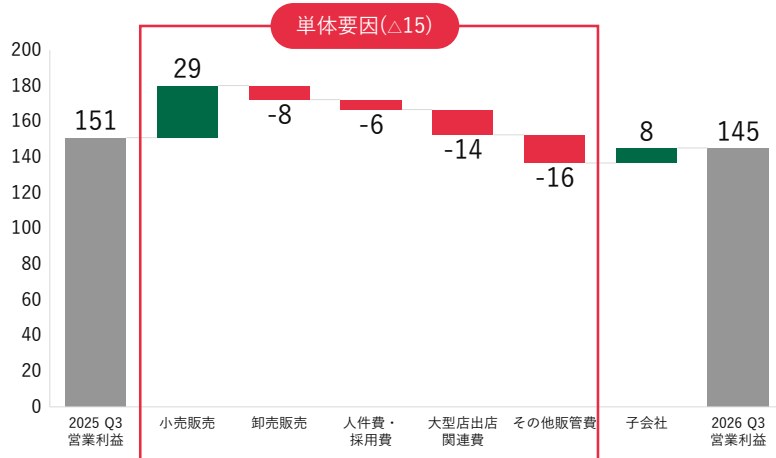
結果、営業利益は145億円となり、前年同期を4%下回りました。

当期純利益は91億円です。

EBITDAを開示しています。計算式は下記に記載しています。金額は175億円、前年同期とほぼ同水準、マージンは4.2%となっています。

営業利益の増減要因については次のスライドでご説明します。

(億円)



- 小売は小売台数の増加により+29億円。
- 卸売は上期の相場下落の影響が残り△8億円。
- 販管費は店舗数の増加に伴い拡大。
- 子会社は上期に続き黒字を維持。

IDOM Inc. ※「2026」表記は、2026年2月期を示す。

11

連結の営業利益の対前年の増減分析を示しています。  
赤い四角の中がIDOM単体の要因となります。

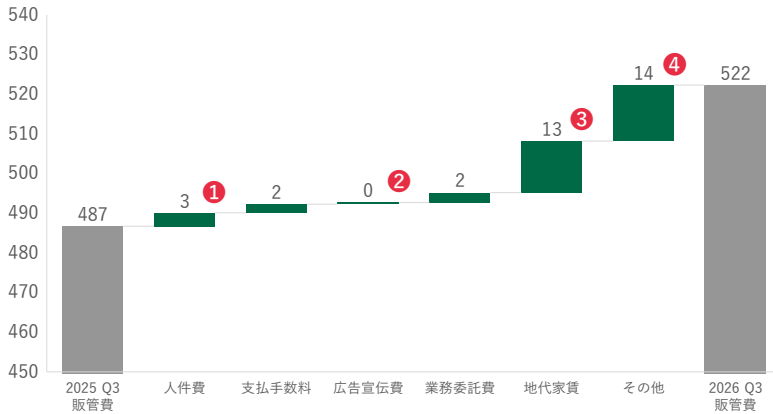
単体の減益幅は15億円です。その内訳は小売セグメントが小売台数の増加により29億円の増益、卸売セグメントは8億円の減益となりました。

一方、大型店の出店に対する地代家賃の増加や運営費用、割賦事業の貸倒引当金計上など販管費は36億円増加しました。

単体以外の連単差については、8億円のプラスとなりました。

この結果、連結営業利益は対前年同期で6億円減少し、145億円となりました。

(億円)



- ① 人員数は平均184人増、単価が約1.3万円増加。
- ② 広告宣伝費は店舗拡大に対して引き続き効率的運用。
- ③ 大型店舗増加による地代家賃の増加。
- ④ 事業拡大による備品や交通費の増加、じしゃロンの売上増加に伴う貸倒引当金(7.5億円)など。

IDOM Inc. ※「2026」表記は、2026年2月期を示す。

前のスライドで連結営業利益の増減要因について説明しました。その中の赤枠で示した単体の販管費についてお話しします。

大型店出店に伴い、積極的に人財の採用・育成を進めています。人員数は前年比184名増加、一人当たりの単価は13千円増加し、人件費等は3億円の増加となりました。

広告宣伝費は店舗数拡大の中で、効率的な使用に努めています。

また、昨年同期との比較で大型店は18店舗増加していますので、地代家賃は13億円増えました。

その他販管費は14億円増加しています。

その他販管費には、備品や交通費など多くの項目から成り立っていますが、割賦販売事業の売上が好調なことから貸倒引当額を7.5億円追加計上しています。

結果として、単体の販管費は36億円増加して522億円となりました。

連結・貸借対照表  
(2025年2月期末)

資産 2,200億円		負債 1,392億円	
現預金	154億円	有利子負債	793億円
売掛金	270億円	その他	599億円
在庫	1,146億円	純資産 808億円	
有形固定資産	391億円	808億円	自己資本比率 36%
その他	239億円		

連結・貸借対照表  
(2026年2月期 第3四半期末)

資産 2,519億円		負債 1,651億円	
現預金	296億円	有利子負債	945億円
売掛金	261億円	その他	706億円
在庫	1,143億円	純資産 868億円	
有形固定資産	504億円	868億円	自己資本比率 34%
その他	315億円		

- 総資産は2,519億円 (+319億)。
- 売掛金は11月に割賦債権の流動化を実行し上期から減少。
- 在庫の主な減少要因は、相場上昇による単価の増加 (+48億円) はあるものの、台数減少 (△51億円) による。
- ネット有利子負債は10億円増加、グロスでは152億円増加。有利子負債は長期借入やリテール・ホール債の同時発行により増加。
- 連結自己資本比率は34%。

連結バランスシート(BS)の状況です。総資産は2,519億円と前期末と比べて319億円増加しました。

資産側ですが、売掛金は割賦販売事業によるものが大半ですが、今期末は9億円減少して261億円となっています。第3四半期には97億円の売掛金の流動化(現金化)を実施して、それにより売掛金の増加をコントロールします。

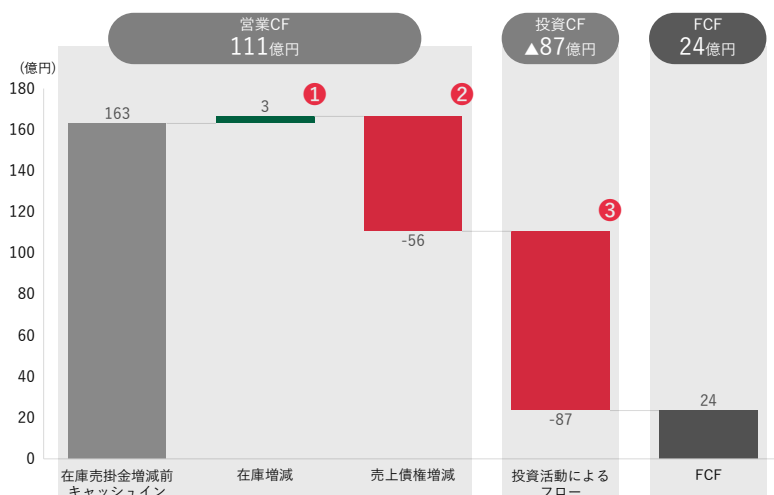
在庫は1,143億円と3億円減とほぼ前年度末と同じ水準となっています。相場上昇による単価の増加により48億円増加しましたが、台数をコントロールして51億円減少させました。引き続き、大型店を出店しながら在庫の適正化を進めております。在庫の回転日数は81日と前期末の87日から6日間圧縮しています。

(スライド26参照)

負債の部は259億円増加し、1,651億円となりました。

有利子負債は152億円増加し、945億円となり、あわせて短期から長期への組み換えを実施しています。この四半期では社債・リテール社債をあわせて40億円起債して調達手段の多角化も進めています。

現預金を考慮したネット有利子負債は10億円増加しています。結果、純資産は60億円増加し、868億円となり、自己資本比率は34%となりました。



- ① 在庫台数の減少により+3億円。
  - ② 割賦債権の増加により△56億円。Q3に割賦売掛金の流動化の実施。FCFが改善。
  - ③ 大型店出店及び整備工場などに87億円を投資。
- 結果、FCFは+24億円

連結のキャッシュフローの状況です。  
 営業キャッシュフローは「在庫・売掛金増減前キャッシュイン」で163億円のキャッシュをうみだしました。在庫の減少により3億円のキャッシュイン、売上債権の増加により56億円のキャッシュアウトがありましたので、営業キャッシュフローは111億円のプラスとなりました。  
 投資キャッシュフローについては、大型店・整備工場など有形・無形固定資産の取得に87億円を投下しました。  
 結果、フリーキャッシュフロー(FCF)は24億円のプラスとなりました。

2. 2026年 2月期 第3四半期の取り組み



IDOM Inc.

大型店

新規OPENした大型店

Gulliver



福島店 (2025年11月オープン)

福島県福島市

直近の店舗展開

【Q3新規大型店オープン】

- ・福島店 (2025年11月)
- ・平塚店 (2025年11月)
- ・熊本店 (2025年11月)

通期進捗

11/15 店舗

大型店舗数

80 店舗

(2025年11月末現在)

IDOM Inc.

16

スライド16をご覧ください。この3か月でオープンした大型店は福島店など3店舗。全国で80店舗の大型店が稼働しています。

(億円)	2026 Q1	2026 Q2	2026 Q3	前四半期比	前年比
売上高	1,385	1,346	1,484	+10.3%	+13.4%
売上総利益	223	226	254	+12.6%	+14.1%
販管費	184	180	194	+7.9%	+12.1%
営業利益	39	46	60	+31.1%	+21.0%
経常利益	36	42	57	+36.2%	+15.5%
親会社株主に帰属する四半期 純利益	23	29	39	+35.9%	+18.3%

ここでもう一度、この3か月の連結のPLを振り返ります。売上高は1484億円。営業利益は60億円。第1四半期の39億円、第2四半期の46億円から拡大してきています。前年同期と比較しても+21%と好調な四半期であったことが分かります。

		Q3累計	Q3進捗	通期までの差分	通期予想
店舗	大型店出店数(店舗)	11	想定通り	4	15
小売	小売台数(千台)	125.2	要改善	42.1	167.3
	小売台粗利 (2023を100とした時の指数)	106	想定通り	-	111
卸売	卸売台数(千台)	114.8	上振れ	30.2	145.0
	卸売台粗利 (2023を100とした時の指数)	106	想定通り	-	108
連結 PL	売上総利益(億円)	702	想定通り	249	951
	販管費(億円)	557	想定通り	193	750
	営業利益(億円)	145	想定通り	56	201

IDOM Inc.

18

今期の第3四半期までの累計のKPI実績と通期の予想の水準とを比較しました。

大型店の出店は通期の15店舗目標に対して、11店舗達成と順調です。

小売について、台数は若干遅れ気味ですが第4四半期で改善可能と考えています。

小売台粗利はこれまでご説明したように回復してきており、第4四半期で通期の予想水準に到達するとみています。

卸売について、台数は順調に推移していますし、卸売台粗利は回復傾向です。

こうしたKPIを受けて営業利益は通期目標の201億円に対して145億円まで進捗しています。第4四半期に残り56億円を実現して、通期予想の達成に取り組んで参ります。

私からの説明は以上となります。

引き続き、企業価値の向上に努めてまいりますので、宜しくお願い致します。